

---

# 破壊神

怠惰な俺

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

破壊神

### 【Nコード】

N0024B

### 【作者名】

怠惰な俺

### 【あらすじ】

星をまわって破壊の限りを尽した邪悪な破壊神が地球に現れた。地球は一体どうなってしまうのか！

## 第1話 神降臨

この世界には一匹の恐ろしい破壊神がいた。

破壊神は白と黒の毛皮に身を包み、鋭い爪と牙を持ち、その力は手を振るだけで大気は震え、海は割れた。その速さは疾風のように動くこともできた。一声叫べば天地が逆転した。破壊神はその力をもつて星々を巡り、あらゆる生物を根絶やしにしてきた。そして悪夢はとうとう地球にやってきた。破壊神は中国の山奥に降り立った。

「くつくつく。ここが地球か。はっ！あれはあっつー！！」

破壊神が大好物の植物を見つけたようだ。日本では

「笹」

という。

「この星にはゲベヴォレア（笹のことらしい）があるのか。くつくつく…この星の生物を皆殺しにしたら永住しようかな…もう疲れちゃった…。」

いきなり弱気な発言の破壊神が気だるそうに立ち上がったそのとき！木の上に大きな生物を見つけた。そして破壊神は我が目を疑った！

「なんだあれは！あの姿はまるで…」

ガシャン！言い終わらないうちに目の前に鉄格子が降ってきた。振り返っても鉄格子。横を見ても鉄格子。

「何だというのだ！」

すると首のあたりに刺すような痛みがした。首を見ると針が刺さっていた。鉄格子の向こうでは木の上にいたのよりは小柄な、体に穴のあいた布のようなものを上半身と下半身にまとった猿か何かの進化形と思われる二足歩行の生命体を発見した。手には金属製と思われる筒のようなものを持っている。

「£。\$\*。」

猿達は何かを言っているようだった。

「しまった。言語適応するのを忘れていた。」

破壊神は懐（どこ？）から謎の木の实のような物を取り出した。この木の实のような物は食べると食べた地域の言語が分かるようになるという、まあドラ。もののこんにやくみtainなものだ。木の实を食べたそのとき！不意に意識が遠のいてきた。

「なんだこの眠気は…クソ…一体この星はどうなっているのだ…。私のあまりの恐ろしさに叫びたくなるのは分かるが…あの針は何なんだ…猿の分際で…生意気…な…。」

実はあの猿達は本来の獲物とあまりにも似ていたため気が付かずに破壊神を捕まえてしまったのだった。本来の獲物は木の上にいたあの大きな生物だった。すぐ向こうでは別の猿がさっきの木の上の生物を捕獲していた。破壊神は薄れゆく意識の中、ようやく効いてきた木の实の効果で猿達に問いかけた。

「貴様らは…一体…私…に…何をしたのだ。」  
すると猿は目を見開いてこう答えた。

「パンダがしゃべった！！？」

破壊神の意識はそこで途切れた…。

## 第2話 嵐の浪漫飛行

気が付けば金属製の壁の小部屋で鉄格子に囲まれていた。 「ここはどこだ？」

するとどこからともなく声が聞こえてきた。

「当機はこれより大きなエアポケットに入ります。 乗客の皆様は着席のうえシートベルトをご着用下さい。」

「エアポケット？何のことだ？」

直後、部屋が轟音と共に激しく揺れた。

「何だ！？何が起きているというのだ！」

するとまたどこからともなく声が聞こえてきた。

「当機は無事エアポケットを通過しました。 引き続き快適な空の旅をお楽しみ下さい。」

破壊神は驚愕した。

「空だと！？もしかここは空中にある牢獄か！おのれ小賢しい猿共め！」

楽しめと言っているのを完全に聞き逃して頭に血が上っている破壊神は怒りまかせて鉄格子を思い切りブン殴った。鉄格子は吹き飛び、辺りには凄まじい衝撃波が走るはずだった。しかし鉄格子はびくともせず、衝撃波の代わりに破壊神の悲痛な叫びが辺り一帯を駆け巡った。

「何故だああ！」

破壊神はあまりの痛さに涙目だった。というかほとんど泣いていた。捕獲の際に使われた麻酔の成分の一部が破壊神の身体に悪影響を与え、破壊神の凄まじい力と風のような速さを一時的に奪ってしまったのだった。すると破壊神の叫びを聞きつけた猿達が破壊神のもとにやってきた。

「また貴様らか！！今度こそ叩き殺してくれるわ！」

もはや痛みでブチ切れ状態の破壊神はありったけの殺意を込めて猿

達を睨みつけた。猿達は激しく恐怖した。心の底から震え上がった。破壊神の凄まじい威圧感に腰を抜かし、顔面蒼白だった。そして恐怖にうち震える猿はこう言った。

「麻醉を使えー！」

そして猿は例の金属製の筒を取り出した。

「こ、これは！」

能力低下の悪夢がまたすぐ目の前にやってきた！

猿は躊躇無く破壊神を狙って撃ってきた。

「うぐっ！」

元気な破壊神ならば難なくよけられるのだが、今回は不意打ち、今回は能力が低下しているので避けきれなかった。針が刺さればすぐに薬は回り、破壊神の意識は再び遠のいてきた。

「これは…麻醉と…いうのか…。」

こうして破壊神はひとつ地球の言葉を覚えたのだった。そして薬による能力低下が治るまでの時間は更に延び、まだまだ弱小パンダとしての生活が続くことも知らず、目覚めてから約15分後、再び破壊神は眠りについた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0024b/>

---

破壊神

2010年10月21日23時39分発行